

インターバンクの声（2016年7月29日）

8月に入ってから発表されると言われていた政府の経済刺激策だったが、当初予想されていた20兆円をはるかに上回る28兆円超の大規模になることを安倍首相が早々と水曜日に表明した。その安倍首相が経済刺激策を表明するとの情報が流れた27日、円相場は確かに105円台前半から106円台半ばまで円売りが進む反応を見せたが、大規模な金額を示した割には、その後、円売りが続いていない。昨日などは104円台半ばまで円が買い戻されている。経済刺激策のうち直接景気刺激に用いられる額が明らかにされていないことが背景にあるのかも知れないが、どうも景気回復に向けて両輪で動かすはずの政府の経済対策と対になる金融緩和に、日銀が応えられないのではとの懸念が日増しに広がっているためのようだ。当然、政府もこうした市場の見方を承知していると思われ、昨夜のニューヨーク市場終盤、日銀が政府からの強い要請のもと、昨日から今日にかけての政策決定会合で追加緩和策を検討しているとの情報がメディアから流れ、いったんは105円台に戻した円相場だが、7時半頃に再び円が急騰した。メディアからの情報が間違っていたのか、否定されるようなコメントでも出たのか、最後のどんでん返しがあることも頭に入れて昼過ぎの日銀会合の結果を待ちたい。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。